米国農務省穀物等需給報告（2026 年6月 11 日発表のポイント）

令和８年６月 12 日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、6月 11 日（現地時間）、2026/27 年度の2回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通し等を発表した。その概要は以下のとおり。
－2026/27 年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1．世界の穀物全体の需給の概要（見込み）（※↑↓→は前月見通しからの増減）

① 生産量：29 億 5,237 万トン（対前年度比　2.0%減）↑
② 消費量：29 億 8,257 万トン（対前年度比　0.2%増）↑
③ 期末在庫量：7億 8,059 万トン（対前年度比　3.7%減）↑
期末在庫率：26.2%（対前年度差　1.1 ポイント減）↑

【主な品目別の動向】

小麦：世界全体の生産量は、豪州、パキスタンで下方修正されたものの、ロシア、トルコ、ウクライナで上方修正されたことを受け、前月から上方修正された。前年度からは減少する見通し。世界の消費量は、前月から上方修正され、前年度からも増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回り、前年度を下回る見通し。

1 生産量：8億 2,006 万トン（対前年度比　2.9%減）↑・・ｲﾝﾄﾞ等で増加、米国、EU、豪州、ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ、ｶﾅﾀﾞ、ｶｻﾞﾌｽﾀﾝ、ﾛｼｱ等で減少（前月に比べ、ﾛｼｱ等で上方修正、豪州等で下方修正）
2 消費量：8億 2,459 万トン（対前年度比　0.1%増）↑・・ｲﾝﾄﾞ等で増加、中国等で減少
3 期末在庫量：2億　7,542　万トン（対前年度比　1.6%減）↑・・ｲﾝﾄﾞ等で増加、米国、豪州、EU、中国等で減少（前月に比べ、ｳｸﾗｲﾅ等で下方修正）
期末在庫率：33.4%（対前年度差　0.6 ポイント減）↓

とうもろこし：世界全体の生産量は、インドで上方修正されたことを受け、前月から上方修正された。前年度からは減少する見通し。世界の消費量は、前月から上方修正され、前年度からも増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回り、前年度を下回る見通し。

1 生産量：13 億 38 万トン（対前年度比　2.0%減）↑・・中国等で増加、米国、ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ等で減少
2 消費量：13 億 2,252 万トン（対前年度比　0.2%増）↑・・中国、ﾌﾞﾗｼﾞﾙ等で増加
3 期末在庫量：2億 8,122 万トン（対前年度比　7.3%減）↑・・中国、米国等で減少
期末在庫率：21.3%（対前年度差　1.7 ポイント減）↑

コメ（精米）：世界全体の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から減少する見通し。世界の消費量は、イラク、ベトナムで下方修正され、前月から下方修正された。前年度からは増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回り、前年度を下回る見通し。

1 生産量：5億 3,782 万トン（対前年度比　1.3%減）→・・ｲﾝﾄﾞ等で減少
2 消費量：5億 4,118 万トン（対前年度比　0.3%増）↓・・ｲﾝﾄﾞ等で増加、中国等で減少
3 期末在庫量：1億 9,281 万トン（対前年度比　1.7%減）↑・・中国等で増加、ｲﾝﾄﾞ等で減少
期末在庫率：35.6%（対前年度差　0.7 ポイント減）↑

2．世界の大豆需給の概要（見込み）

世界全体の生産量は、ロシアの収穫面積減少を受け、生産量が下方修正され、前月から下方修正された。前年度からは増加する見通し。世界の消費量も、前年度から増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回るものの、前年度を下回る見通し。

1 生産量：4億 4,134 万トン（対前年度比　2.8%増）↓・・ﾌﾞﾗｼﾞﾙ、米国等で増加
2 消費量：4億 4,078 万トン（対前年度比　3.0%増）↑・・ﾌﾞﾗｼﾞﾙ、米国、中国等で増加
3 期末在庫量：1億 2,488 万トン（対前年度比　0.5%減）↑
期末在庫率：28.3%（対前年度差　1.0 ポイント減）↑

大臣官房政策課食料安全保障室　（03-6744-2368）

世界の穀物・大豆の需給動向

（米国農務省2026年6月11日発表）

【穀物】

（単位：百万ﾄﾝ）

項目＼年度	2024/25	2025/26（見込み）	2026/27（予想）	2026/27 前年度比（期末在庫率は「前年度差」）	2026/27 前月差	（参考）2012/13
全体						
生産量	2,856.60	3,011.38	2,952.37	▲ 2.0%	6.8	2,299.4
消費量	2,876.92	2,975.43	2,982.57	0.2%	9.6	2,287.4
期末在庫量	774.84	810.79	780.59	▲ 3.7%	3.6	480.3
期末在庫率	26.9%	27.2%	26.2%	▲ 1.1	0.04	21.0%
小麦						
生産量	799.31	844.36	820.06	▲ 2.9%	1.0	660.8
消費量	809.91	823.94	824.59	0.1%	1.4	680.3
期末在庫量	259.53	279.95	275.42	▲ 1.6%	0.4	180.6
期末在庫率	32.0%	34.0%	33.4%	▲ 0.6	▲ 0.01	26.5%
粗粒穀物						
生産量	1,515.26	1,622.29	1,594.49	▲ 1.7%	5.8	1,162.6
消費量	1,536.25	1,611.96	1,616.80	0.3%	8.5	1,141.9
期末在庫量	324.36	334.69	312.37	▲ 6.7%	3.2	176.1
期末在庫率	21.1%	20.8%	19.3%	▲ 1.4	0.1	15.4%
とうもろこし						
生産量	1,233.20	1,326.67	1,300.38	▲ 2.0%	5.0	903.3
消費量	1,251.11	1,319.29	1,322.52	0.2%	7.7	880.6
期末在庫量	295.98	303.36	281.22	▲ 7.3%	3.7	145.5
期末在庫率	23.7%	23.0%	21.3%	▲ 1.7	0.2	16.5%
コメ（精米）						
生産量	542.03	544.74	537.82	▲ 1.3%	－	476.0
消費量	530.76	539.53	541.18	0.3%	▲ 0.2	465.2
期末在庫量	190.95	196.16	192.81	▲ 1.7%	0.1	123.6
期末在庫率	36.0%	36.4%	35.6%	▲ 0.7	0.03	26.6%

【大豆】

項目＼年度	2024/25	2025/26（見込み）	2026/27（予想）	2026/27 前年度比	2026/27 前月差	（参考）2012/13
生産量	427.93	429.20	441.34	2.8%	▲ 0.2	268.9
消費量	412.18	427.95	440.78	3.0%	0.1	265.4
期末在庫量	126.00	125.52	124.88	▲ 0.5%	0.1	58.3
期末在庫率	30.6%	29.3%	28.3%	▲ 1.0	0.02	22.0%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(June 11, 2026)
「PS&D」

注：1）穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。
2）小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。
3）期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／消費量
4）年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]
5）在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。
6）（参考）は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。
7）なお、「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物･大豆の需給動向

（米国農務省2026年6月11日発表）

【穀物】　　（単位：百万ﾄﾝ）

項目＼年度	2024/25	2025/26（見込み）	2026/27（予想）	2026/27 前年度比（期末在庫率は「前年度差」）	2026/27 前月差	（参考）2012/13
全体						
生産量	452.42	508.41	**467.51**	▲ 8.0%	▲ 0.5	353.0
消費量	360.32	380.63	**376.29**	▲ 1.1%	－	317.1
輸出量	100.66	117.76	**109.05**	▲ 7.4%	－	51.6
期末在庫量	67.34	84.40	**74.08**	▲ 12.2%	▲ 0.4	44.2
期末在庫率	14.6%	16.9%	**15.3%**	▲ 1.7	▲ 0.1	12.0%
小麦						
生産量	53.85	54.01	**42.01**	▲ 22.2%	▲ 0.5	61.3
消費量	31.12	30.47	**29.91**	▲ 1.8%	－	37.8
輸出量	22.48	24.77	**21.09**	▲ 14.9%	－	27.5
期末在庫量	23.26	25.44	**20.25**	▲ 20.4%	▲ 0.5	19.5
期末在庫率	43.4%	46.1%	**39.7%**	▲ 6.3	▲ 1.0	29.9%
粗粒穀物						
生産量	391.51	447.83	**419.94**	▲ 6.2%	－	285.3
消費量	323.90	344.79	**341.50**	▲ 1.0%	0.01	275.5
輸出量	75.31	90.45	**85.45**	▲ 5.5%	－	20.7
期末在庫量	42.37	57.22	**52.47**	▲ 8.3%	0.04	23.5
期末在庫率	10.6%	13.1%	**12.3%**	▲ 0.9	0.01	7.9%
とうもろこし						
生産量	378.27	432.34	**406.29**	▲ 6.0%	－	273.2
消費量	311.60	333.52	**331.61**	▲ 0.6%	－	263.0
輸出量	72.60	84.46	**80.01**	▲ 5.3%	－	18.5
期末在庫量	39.40	54.48	**49.78**	▲ 8.6%	0.1	20.9
期末在庫率	10.3%	13.0%	**12.1%**	▲ 0.9	0.02	7.4%
コメ（精米）						
生産量	7.05	6.56	**5.56**	▲ 15.2%	－	6.3
消費量	5.30	5.37	**4.89**	▲ 8.9%	－	3.8
輸出量	2.87	2.54	**2.51**	▲ 1.2%	－	3.4
期末在庫量	1.71	1.74	**1.36**	▲ 21.8%	0.02	1.2
期末在庫率	20.9%	22.0%	**18.4%**	▲ 3.6	0.3	16.1%

【大豆】

項目＼年度	2024/25	2025/26（見込み）	2026/27（予想）	2026/27 前年度比	2026/27 前月差	（参考）2012/13
生産量	119.05	115.99	**120.70**	4.1%	－	82.8
消費量	69.09	75.16	**77.83**	3.6%	－	48.6
輸出量	51.23	41.10	**44.36**	7.9%	－	36.1
期末在庫量	8.84	9.25	**8.44**	▲ 8.8%	－	3.8
期末在庫率	7.3%	8.0%	**6.9%**	▲ 1.0	－	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(June 11, 2026)
「PS&D」

注：1）穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。
2）小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。
3）期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／(消費量＋輸出量)
4）年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば､米国では､小麦(6～5月)､とうもろこし(9～8月)､コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]
5）在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。
6）（参考）は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。
7）なお、「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

（参考１）

世界の穀物等の価格動向（2026 年）

● 小　麦：5.80 ドル/ｂｕ（前年同時期の価格：5.55 ドル/ｂｕ）

【価格は、シカゴ商品取引所における 2026 年６月第１週末のセツルメント価格】

（史上最高値：14.25 ドル/bu(2022 年３月７日)）

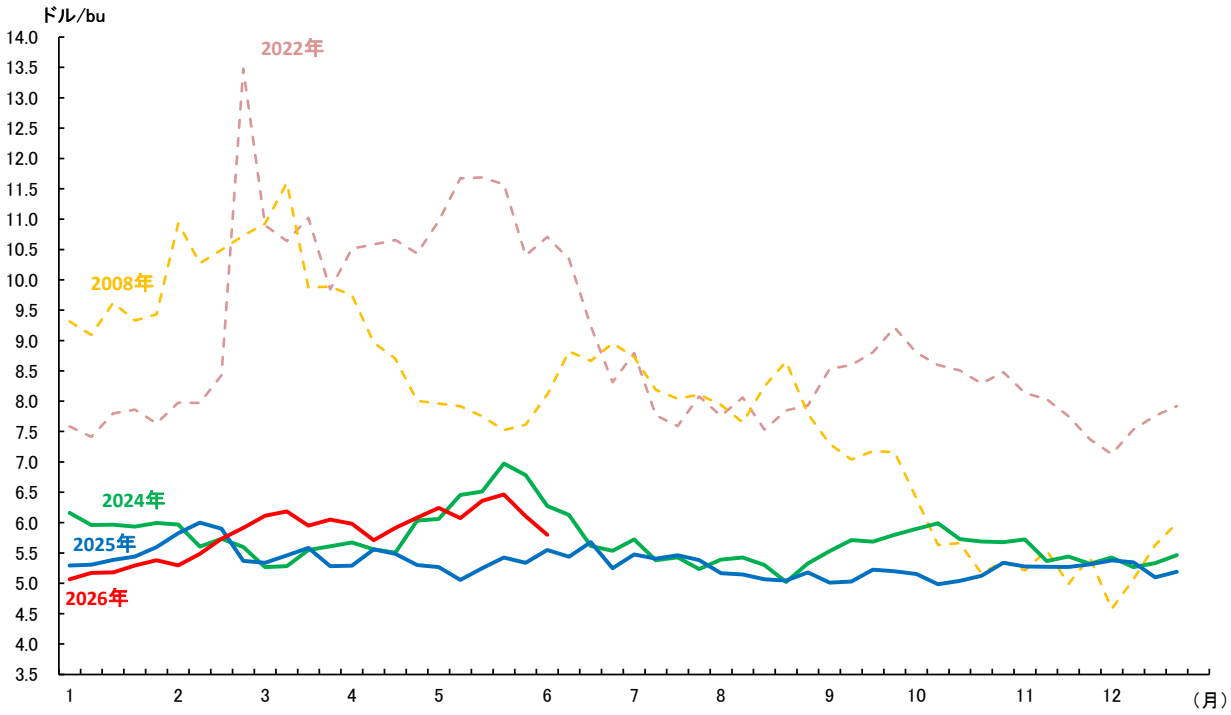
12 月末現在、５ドル/bu 台前半で推移。１月に入り、米国やロシアの寒波による冬小麦の作柄に対する懸念やドル安等を受けて値を上げ、１月末現在、５ドル/bu 台半ばで推移。

２月に入り、世界的に潤沢な供給やドル高等を受けて５ドル/bu 台前半まで値を下げたものの、米国の乾燥による作柄懸念等を受けて値を上げ、２月末現在、５ドル/bu 台後半で推移。

３月に入り、米国の冬小麦生産地域の降雨等を受けて５ドル/bu 台半ばまで値を下げたものの、中東情勢や米国の冬小麦生産地域の乾燥懸念等を受けて値を上げ、３月末現在、６ドル/bu 台前半で推移。

４月に入り、米国の冬小麦生産地域の降雨等を受けて５ドル/bu 半ば近くまで値を下げたものの、同地域の乾燥や堅調な需要等を受けて６ドル/bu 台半ばまで値を上げた。その後、降雨等を受けて値を下げ、４月末現在、６ドル/bu 台前半で推移。

５月に入り、米国農務省需給報告で 2026/27 年度の小麦生産量減少見通しや中国の農産物購入合意報道等を受けて６ドル/bu 台後半まで値を上げたものの、原油価格の下落や北半球における収穫開始等を受けて値を下げ、５月末現在、６ドル/bu 台前半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2008年及び2022年と直近3年の価格の推移

● とうもろこし：4.18 ドル/ｂｕ（前年同時期の価格：4.43 ドル/ｂｕ）
【価格は、シカゴ商品取引所における 2026 年６月第１週末のセツルメント価格】
（史上最高値：8.31 ドル/bu(2012 年８月 21 日)）

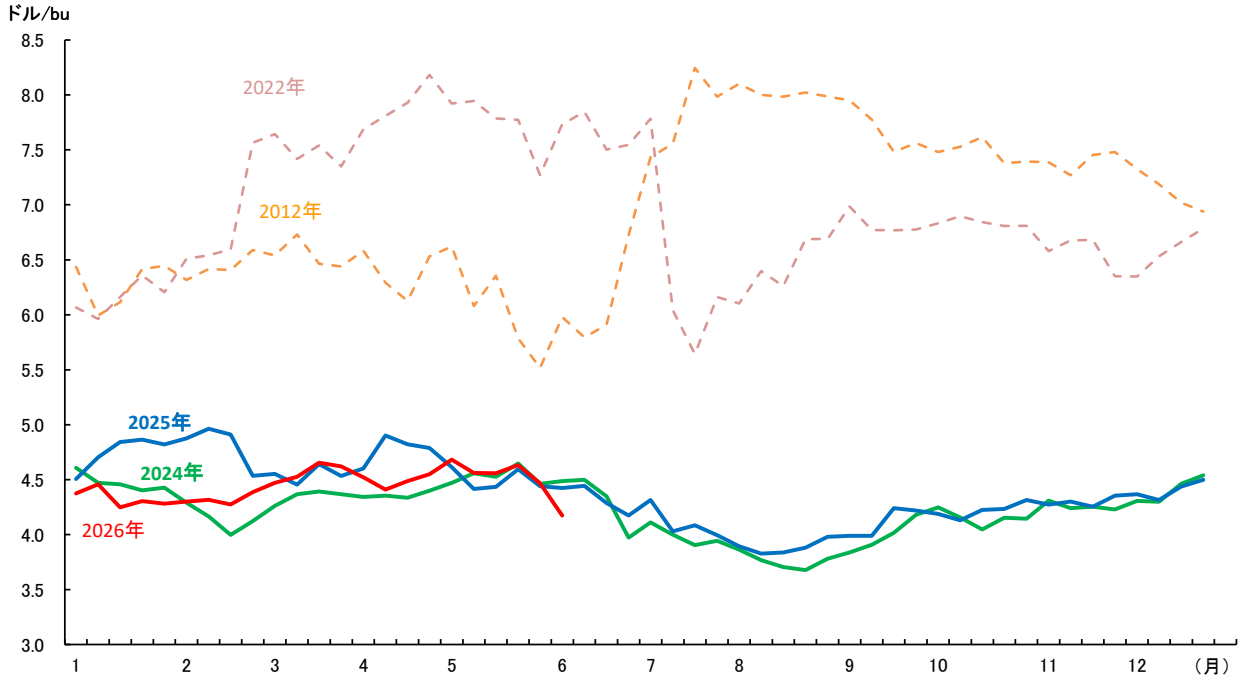
12 月末現在、４ドル/bu 台半ばで推移。１月に入り、米国農務省需給報告で米国のとうもろこし生産量が上方修正されたこと等を受けて値を下げ、１月末現在、４ドル/bu 台前半で推移。

２月に入り、大豆に連れ高となったこと等を受けて４ドル/bu 台半ばまで値を上げたものの、世界的な天候改善等を受けて４ドル/bu 台前半まで値を下げた。その後、米国産とうもろこしの堅調な輸出等を受けて値を上げ、２月末現在、４ドル/bu 台半ばで推移。

３月に入り、中東情勢への懸念や資材価格高騰による米国産とうもろこしの作付面積減少予測等を受けて４ドル/bu 台後半まで値を上げたものの、イランへの攻撃延期等を受けて値を下げ、３月末現在、４ドル/bu 台半ばで推移。

４月に入り、米国における過剰な降雨による作付遅延懸念等を受けて値を上げ、４月末現在、４ドル/bu 台後半近くで推移。

５月に入り、中国の農産物購入合意報道や小麦価格の上昇等を受けて４ドル/bu 台後半まで値を上げたものの、原油価格の下落や米国の良好な天候等を受けて値を下げ、５月末現在、４ドル/bu 台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年及び2022年と直近3年の価格の推移

● コ　メ：496 ドル/トン（前年同時期の価格：445 ドル/トン）

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における 2026 年６月第１水曜日の FOB 価格が公表されなかったため、６月第２木曜日の FOB 価格。なお、前年同時期の価格は 2025 年６月第１水曜日の FOB 価格】

（史上最高値：1,038 ドル/トン(2008 年５月 21 日)）

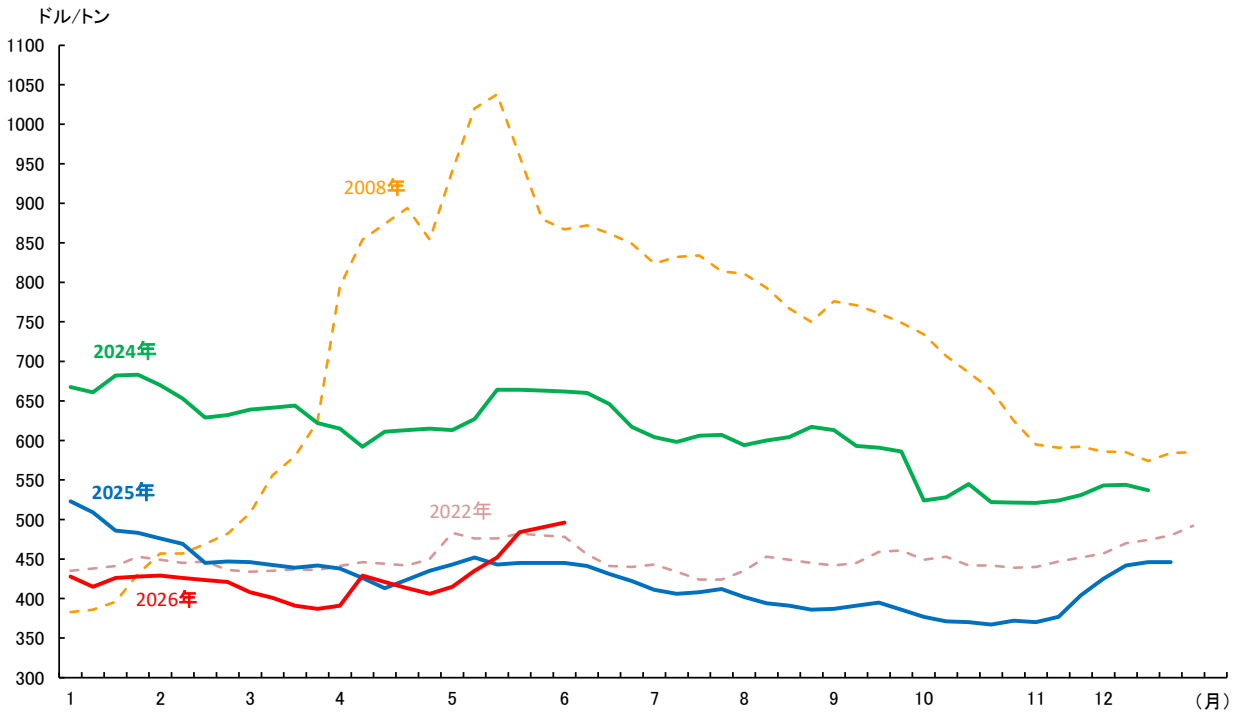
12 月末現在、440 ドル/トン台半ばで推移。１月に入り、世界的な供給増及び需要の低迷等を受けて 410 ドル/トン台半ばまで値を下げたものの、フィリピンのコメ輸入再開等を受けて再び値を上げ、１月末現在、420 ドル/トン台後半で推移。

２月に入り、世界的な供給増及び需要の低迷等を受けて値を下げ、２月末現在、420 ドル/トン台前半で推移。

３月に入り、世界的な供給増及び需要の低迷等を受けて値を下げ、３月末現在、380 ドル/トン台後半で推移。

４月に入り、中東での紛争による燃料費の高騰等を受けて 420 ドル/トン台後半まで大きく値を上げたものの、米国農務省需給報告でタイの生産量が上方修正されたことやタイ米に対する需要減少等を受けて値を下げ、４月末現在、400 ドル/トン台半ばで推移。

５月に入り、中東情勢の影響に加え、エルニーニョ現象の影響による次期作の見通しの不確実性を受けて大きく値を上げ、５月末現在、480 ドル/トン台半ばで推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100 %2等のFOB価格（各週水曜日）
グラフは、コメ価格が史上最高値を記録した2008年及びロシアがウクライナに侵攻した2022年と直近3年の価格推移。

● 大　豆：11.22 ドル/ｂｕ（前年同時期の価格：10.57 ドル/ｂｕ）
【価格は、シカゴ商品取引所における 2026 年６月第１週末のセツルメント価格】
（史上最高値：17.71 ドル/bu(2012 年９月４日)）

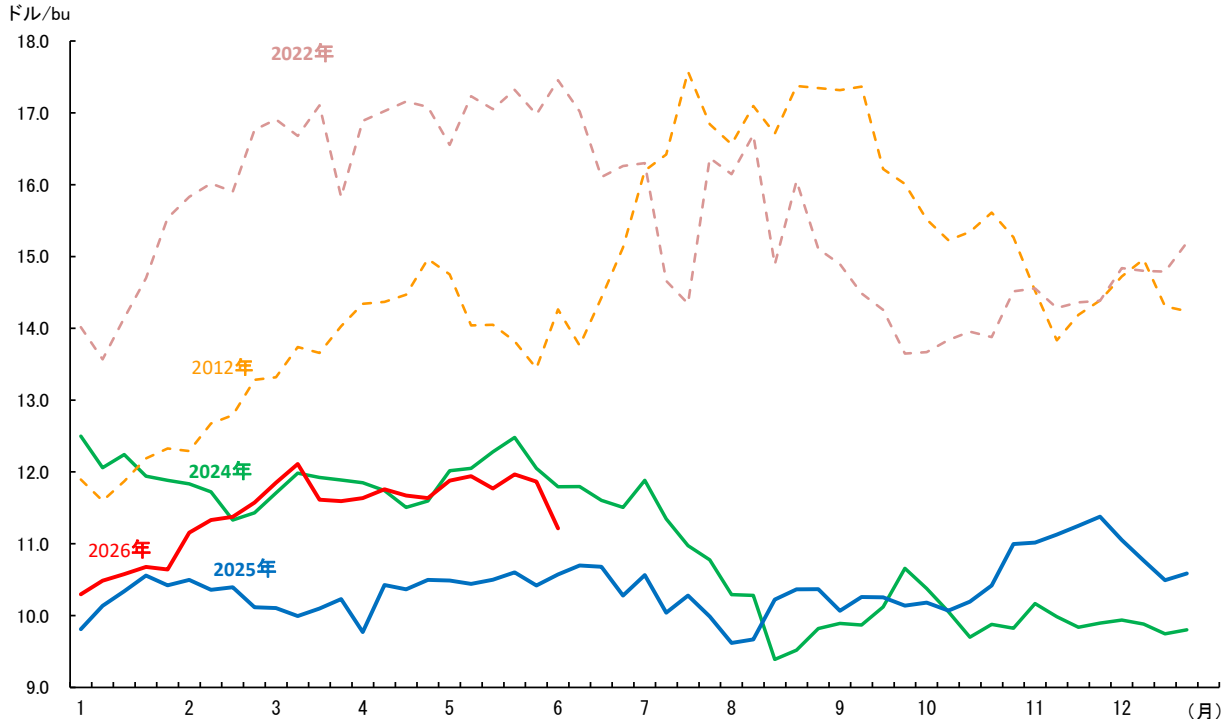
12 月末現在、10 ドル/bu 台前半で推移。１月に入り、中国の米国産大豆の継続的な買付け等を受けて 10 ドル/bu 台半ばまで値を上げたものの、米国農務省需給報告で米国の大豆生産量が上方修正されたこと等を受けて 10 ドル/bu 台前半まで値を下げた。その後、中国需要に対する期待やアルゼンチンの乾燥懸念等を受けて値を上げ、１月末現在、10 ドル/bu 台半ばで推移。

２月に入り、中国による米国産大豆追加購入への期待等を受けて値を上げ、２月末現在、11 ドル/bu 台半ばで推移。

３月に入り、中東情勢への懸念や中国による米国産大豆購入への期待等を受けて 12 ドル/bu 台前半まで値を上げたものの、米中首脳会談延期による中国の米国産大豆の追加購入期待後退等を受けて値を下げ、３月末現在、11 ドル/bu 台後半で推移。

４月に入り、原油、大豆油・大豆ミール価格の下落・上昇等を受けて 11 ドル/bu 台半ばから後半で推移し、４月末現在、11 ドル/bu 台後半で推移。

５月に入り、原油価格の上昇・下落や米国農務省需給報告で 2026/27 年度の米国の期末在庫量が市場予測を下回ったこと、中国の農産物購入期待・失望等を受けて 11 ドル/bu 台後半から 12 ドル/bu 台前半で上下した。その後、原油価格の下落や米国の良好な天候等を受けて値を下げ、５月末現在、11 ドル/bu 台後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年及び2022年と直近3年の価格の推移。

（参考２）

１　為替レート（対ドル円相場）

単位：円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.40

2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年1月	2月	3月	4月	5月
108.99	106.73	109.89	131.57	140.59	151.59	156.49	151.96	149.18	144.39	144.75

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年1月	2月	3月	4月
144.50	146.71	147.67	147.94	151.28	155.12	155.88	156.71	155.07	158.64	159.28

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2027年1月	2月	3月
158.34										

出典：　為替相場（東京インターバンク相場）　東京市場、中心相場　スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表　http://www.stat-search.boj.or.jp/
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

２　海上運賃（フレート）

単位：ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42

2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年1月	2月	3月	4月	5月
45.01	38.28	65.79	60.71	48.61	50.33	40.33	40.41	42.37	43.29	43.93

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年1月	2月	3月	4月
45.30	51.06	50.44	53.84	50.87	51.05	47.68	46.46	49.14	53.11	54.16

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2027年1月	2月	3月
60.07										

出典：　米国(ガルフ)－日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates,「World Grain Statistics」,「IGC Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日の価格の平均値。

３　原油価格（WTI：米国ウエスト・テキサス・インターミディエート）

単位：ドル/バレル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	92.91	48.76	43.47	50.85	64.90

2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年1月	2月	3月	4月	5月
57.04	39.34	68.08	94.33	77.61	76.63	75.74	71.53	68.24	63.54	62.17

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年1月	2月	3月	4月
68.17	68.39	64.86	63.96	60.89	60.06	57.97	60.04	64.51	91.38	100.32

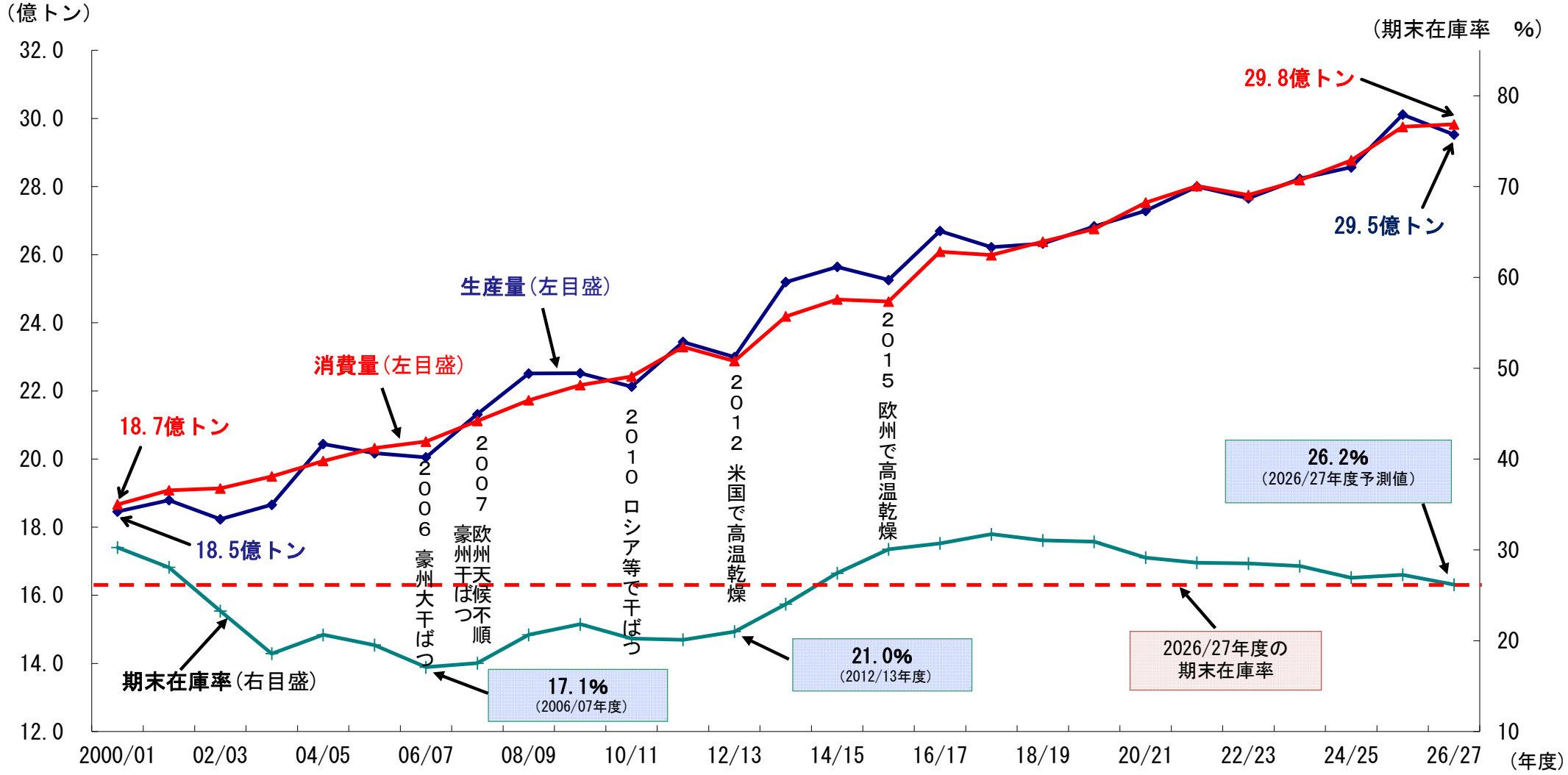
5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2027年1月	2月	3月
102.13										

出典：　内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ　－月次アップデート－」。但し、2024年12月以降は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の月次データ。また、年別の2024年以降は同Reportの年次データ。

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

○ 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2026/27年度は、2000/01年度に比べ1.6倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
○ 2026/27年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、26.2%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(June 2026)、「PS&D」
(注) なお、「PS&D」 については、最新の公表データを使用している。